

THE YOUNG CHRISTIAN

Published in the interest of Y. M. C. A's in Japan.

近代日本のキリスト教勃興期に創刊された、
関西の基督教青年同盟機関誌。

廃娼運動を推進し、関西を中心に四国や北陸まで
西日本地域のキリスト教会の情報を
丁寧に報じ、つないだ貴重資料の復刻版！

復刻版

基督教青年 全一卷

きりすときょうせいねん

一八八九年九月〜九〇年八月刊行(全二〇号を収録)

基督教青年同盟(YMCA)発行

解説(滝澤民夫)・総目次・索引付き

推薦 細井 勇

A5判・上製・約四〇〇ページ

本体価格一八、〇〇〇円十税 ISBN 978-4-8350-6588-5



11010年十二月刊!

不二出版

近代キリスト教史の空白を埋める資料

細井 勇

「基督教青年」関連年表

1875	12	「七雑報」創刊
1880	10	東京基督教青年会機関誌「六合雜誌」創刊
1883	7	「七雑報」改題「福音新報」(大阪 福音社)
1888	4	「東京婦人矯風雜誌」創刊
	8	増野悦興、岡山孤児院の石井十次と協力、日向(高鍋)に日向教会設立、初代牧師となる
	10	神戸基督教徒青年会機関誌「青年会月報」創刊
		山陰基督教青年会機関誌「白樺書」創刊(鳥取)
		中国基督教青年会機関誌「青年会雜誌」創刊(岡山)
1889	1	上毛青年会機関誌「上毛青年会雜誌」創刊(群馬)
(明治22)	6	「上毛青年会雜誌」改題「上毛之青年」
	9	大阪青年会機関誌「基督教青年」創刊
	10	京都基督教青年会機関誌「青年之光」創刊
1890	1	関西四女学校女学生会機関誌「つば美」創刊(大阪)
	3	「福音週報」創刊
	4	雑誌「廢娼」創刊
	8	増野悦興、渡米。「基督教青年」終刊
1893	10	増野悦興、帰国
1894	1	増野悦興、靈南坂教会牧師となる。年末には安中教会牧師となる
1899	4	増野悦興、埼玉県第三中学校(川越)校長となる(1902)
1903		増野悦興、青年教育を掲げ成民会を立ち上げる
1904	5	日本基督教女子青年会機関誌「明治の女子」創刊
1906	2	日本基督教青年会同盟機関誌「開拓者」創刊
1907		増野悦興、同仁教会飯田町教会(東京)牧師となる
1911	7	雑誌「廓清」創刊
1912	9	増野悦興、没
	10	「明治の女子」
		改題「女子青年界」

明治二〇年前後の日本は、欧化主義の時代であり、キリスト教の教勢は伸張し、西日本地方ではキリスト教青年会(Y.M.C.A.)が次々に結成されていった。一八八六(明治九)年五月に発会する神戸基督教徒青年会は、一八八八年一〇月、機関誌『青年会月報』を発行している。ただし、翌年十六号をもって途切れている。

『基督教青年』は一八八九年九月、第二号が大阪青年会を事務局として発行された。第四号からは基督教同盟社からの発行となる。この時点での同盟は、大阪青年会(以下青年会を略す)、多聞、神戸、兵庫、和歌山、丸亀、岸和田、堺、関西学院の二〇会から成っていた。その後同盟加入は増え、九〇年三月、新たに発足した関西連合基督教青年会からの発行となるが、同年八月をもって終刊に至る。第四号から編纂人となった増野悦興の渡米の影響が大きいであろう。

『基督教青年』について現存が確認されない状況が続いてきた。そのためか、本機関誌の内容やその編纂人増野悦興の足跡等について、これまでほとんど知られることはなかったといえよう。幸いにも増野悦興研究をライフワークとされている滝澤民夫氏によって、ついに幻の本機関誌が発掘された。このたび、氏の解説によって本機関誌が復刻されるに至ったことは、これまでの歴史研究における「空白を埋めてくれるもの」として慶賀に堪えない。

一八八〇年、東京基督教青年会機関誌として発刊された『六合雜誌』をはじめ、これら初期のキリスト教青年会機関誌からは、近代文明の摂取がとかく表面的で浮薄に流れていく時代状況への危機意識と、文明の精神を内省的に捉え直そうとする潑刺たる精神の息吹が伝わってこよう。『基督教青年』は「七雑報」(一八七五〜八三年)、「福音新報」(一八八三〜八五年)、「青年会月報」を引き継いで、西日本地方を中心とする教界事情を伝える情報媒体となったのであり、注目すべきはそこで廢娼論が活発に論じられていったことであろう。

(ほそいさむ 福岡県立大学教授)



内容見本

基督教青年 第一號

基督教青年 第一號

基督教青年

○發行の主意

大坂の我國商業の中心たる所ならず、又商法を練達せる爲も然らしむる所あるべし、地利富集る、財富多し、故自ら他二都の如く官廨の有無を依職として是を由るあり、地利の獨り商業を興起するも他百般に便あり、然れども現て以て全國を指揮する能わざるは函嶺より中分して、一を關

基督教青年

第七號
第号(一八八九年九月より)

望月興三郎

バ、大坂の實も關西の首府あり、之を據て以て旗幟を翻へさば大爲す所あるべし、今我儕が此形勝の地を占むるに、恰も嶠を憑るの虎の如し、我儕の基督教徒中一種特色の人物を以て、顯然一大勢力を爲すものなり、自ら任ずる所重くし

第七号(一八九〇年三月より)

青年

●伊豫基督教青年会 松山、今治、小松、波止濱、等の部會より成立ものなるが、去月廿一日各部會より數十名の代員松山の地を會合し、全廿二日松山新會堂に於て一大懇親會を開かれ、其翌日曜日の午後より松山教會青年の懇親會を催され、波止濱教會牧師鹽見孝二郎氏の奨励及び今治教會牧師山中百氏の通譯にて同地在留の宣教師ノイス氏の演説等あり且夜分を至りて山中百氏の説教もあり近時稀なる盛會あり

●兵庫青年會 員の臨時會の決議より毎安息日の夜會員數名宛更代して貧民夜學校へ傳道せんとせられたる由、

廢娼

●兵庫廢娼演說會 二月十九日午後七時より本會員の發起にて兵庫基督教會堂に於て廢娼演說會を開き河村正雄氏開會の主意として基督教徒の義務と責任を陳述し次ぎて(大義名文を明かす)と牧龍太君(所感)阿部政恒君(廢娼説を賛成する理由)星野光多君(偶感)長田時行君の四氏更お雄辯を揮て演ぜられ次に兵庫縣廢娼同盟會の主意書會則申込書等を配布して會員を募集せり聴衆堂内充ち各感激の色を呈し冷澹頑固として有名兵庫に於ては近來不偶の盛會あり(兵庫基督教青年會幹事報)

●和廢娼會高田部 本月八日百六十六名の連署を以て一の廢娼建白書を目下開會中なる奈良縣會通常會へ呈出したり元來全部理事員等は本年一月三日同地へ大和全國廢娼大會をなせし以來今日に至るまで一

演說

●大阪教會青年福音會 去九日同教會に於て演說